

児童生徒質問紙の結果から見た子どもの姿

児童生徒質問紙の調査とは、該当学年の児童生徒を対象にしたアンケート調査で、学習状況や生活状況について回答しています。これらの回答から見えた結果を基に、桑名市の子どもの強みや弱み（課題）を紹介します。

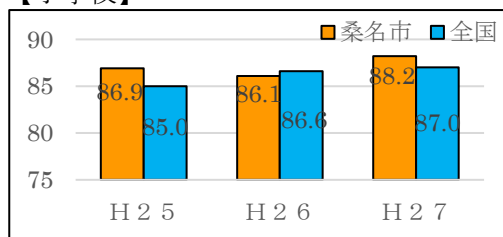
強み

○学校に行くのが楽しい！と実感

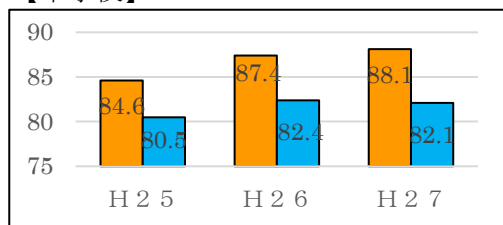
学校に行くのが楽しいと回答している児童生徒は、小学校・中学校共に9割近くいます。特に、中学校では全国との比較において、毎年肯定的回答が高い傾向にあり、今年度では、6ポイント高い結果でした。また、平成25年度からの同じ質問における変化を見てみると、徐々に楽しいと答える児童生徒が増えていることが分かります。今後も全ての子どもが学校に行くのが楽しいと感じられるような学校づくりを進めていきます。また、この数値に満足せず、学校が楽しいと思えていない子どもたちへの配慮も忘れないように取り組んでいきます。

学校に行くのが楽しい

【小学校】



【中学校】



○人の役に立つ人間になりたい！

過去3年間 9割以上

下の表のように、3年間連続で9割以上の子どもたちが「人の役に立つ人間になりたい」と思っていることは大変うれしい結果です。また、関連のある質問「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」の項目においても、毎年9割以上の児童生徒が肯定的回答であることがわかりました。子どもたちがこれから生きていく上で人との関わりは必要不可欠であり、引き続き多くの子どもたちがこれらの思いを大切にできるよう取り組んでいきます。

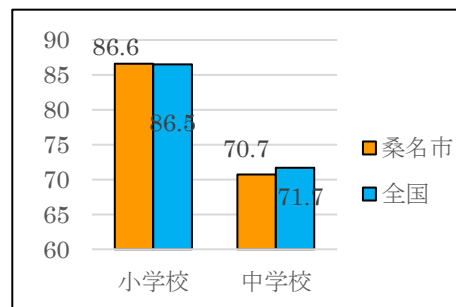


	小学校 (%)			中学校 (%)		
	H25	H26	H27	H25	H26	H27
人の役に立つ人間になりたいと思う	95.0	92.8	94.4	92.2	93.4	94.8
人の気持ちが分かる人間になりたいと思う	92.5	92.5	93.6	94.4	94.1	95.5

「将来の夢や目標を持っている」と回答している児童生徒も右のグラフのように多く、この結果は大変うれしいことです。将来の夢や目標があることで、あらゆることに前向きに取り組めたり、頑張る原動力になったりします。学校では、自分は何が好きなのか、得意なのか等、自分を見つめ直せるような場面を増やしていきたいと考えます。

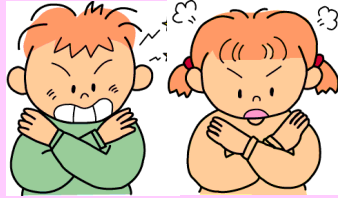
これらの思いを実感させていくため、さまざまな場面で周りの人たちと関わり合いながら、自分に自信が持てるよう教育活動を充実させていきたいと考えています。

将来の夢や目標を持っている



○いじめはダメ！約95%

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか？」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒は、3年連続で9割を超えています。また、中学校では、90%から94.4%に増えています。3年間変わらず高い割合であったことは大変うれしく思います。これからも変わらず、「いじめは許さない」という立場に立ち、自分を大切に、仲間を大切にできるように取り組んでいきます。



いじめはどんなことがあってもいけないと思う
※桑名市 (%) ()内は全国

	H25	H26	H27
小学校	96.5 (95.9)	96.1 (96.4)	96.2 (96.2)
中学校	90.2 (93.5)	91.5 (93.4)	94.4 (93.7)

自分には良いところがあると思う

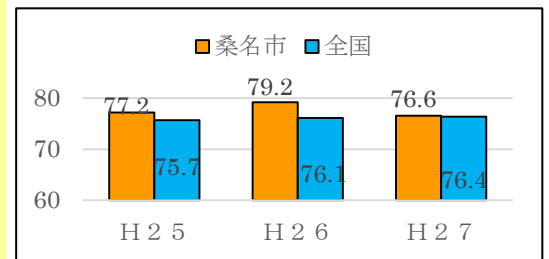
○自分には良いところがあると感じている

桑名市の児童生徒は、「自分には良いところがある」と感じている子が全国との比較においてやや高い結果となっています。また、過去3年間をみても多くの児童生徒が肯定的回答をしています。

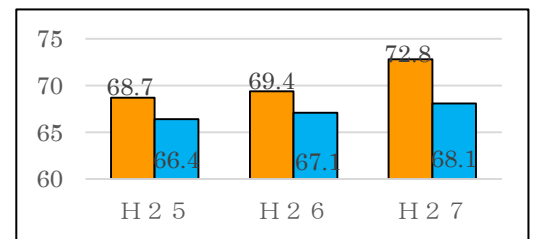
また、この結果に満足せず、すべての子どもたちが「自分には良いところがある」と実感できるよう、取り組みを進めていきます。子どもたち一人ひとりのよさを認め、伝えるとともに、達成感を感じたり、最後までやり遂げたりする経験を積み重ねることで、さらに自己肯定感を高めていきたいと考えています。



【小学校】



【中学校】



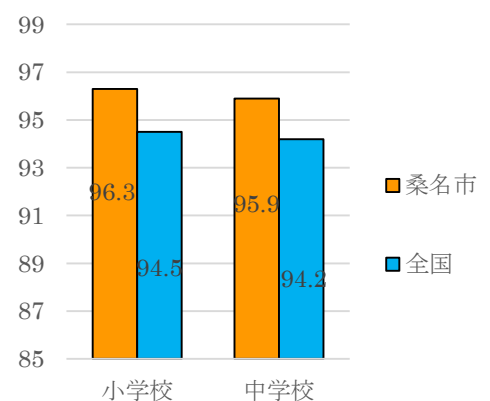
○最後までやり遂げる経験をしている

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という質問で「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒は95%を超えており、多くの子どもたちが、あきらめずに頑張ったときの達成感や満足感を実感しています。全国学力・学習状況調査でも最後まであきらめずに取り組んだ成果が無回答率減少につながっています。このような経験の積み重ねにより、何事もあきらめずに最後までがんばる姿勢が身に付きます。

この項目を強みと捉え、これからも学校や地域で最後までやり遂げる経験をたくさん積み重ねていきたいと思えます。



ものごとを最後までやり遂げて、
うれしかったことがある



弱み（課題）

○依然として、スマホ・携帯電話、ゲーム、TVに費やす時間が長い

右のグラフは、中学校3年生の「平日に3時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール等をしている割合」です。桑名市においても全国と同様、20%近くの生徒が、通話やメールに多くの時間を費やしていることが気になります。

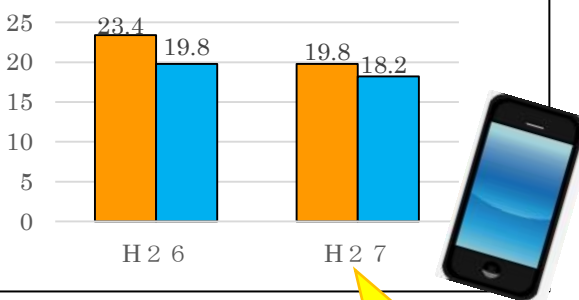
また、下のグラフの、テレビゲームの使用時間やテレビ・DVD等の視聴時間も合わせて考えると、多くの児童生徒がこうしたメディアに費やす時間によって、家族との関わりや学習の時間が奪われていないか心配です。

桑名市では、学校又は中学校区ごとにノーテレビ・ノーゲームデー等の機会を作り、メディアから離れる期間を設定するなど取り組んでいる地域もあります。

長時間画面を見て過ごすことで健康や学力に影響があることは言うまでもありません。「保護者・地域のみなさまへ」にも書かせていただいたように、大切なのは自分の時間をどう管理するかです。すべて禁止するのではなく、児童生徒自身が時間の使い方を計画し、実行できるように周りの大人が見守っていくことが大切です。

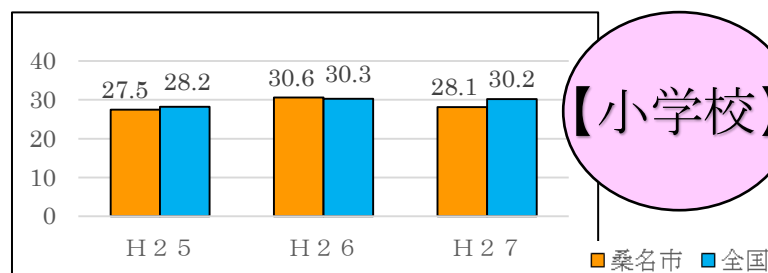
平日1日当たり携帯電話やスマートフォンで**3時間以上**通話やメール・インターネットをする（中学校）

■桑名市中学3年 ■全国中学3年



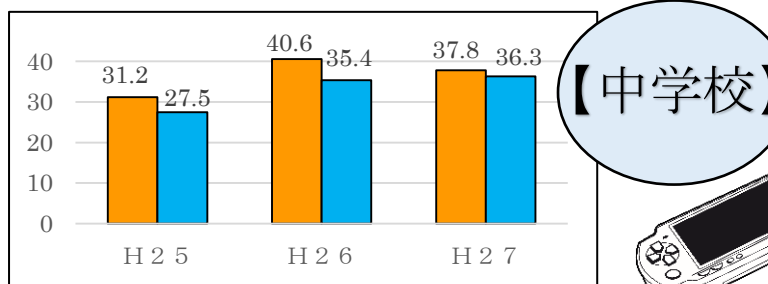
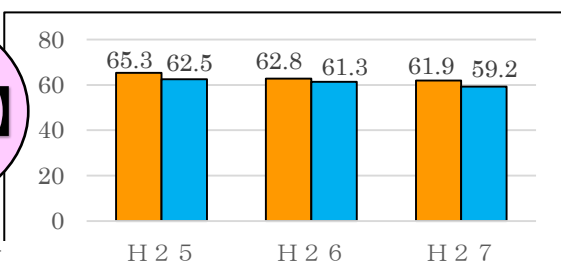
桑名市の今年度の結果では、約260人の生徒が該当しています。

テレビゲームを平日1日当たり2時間以上する

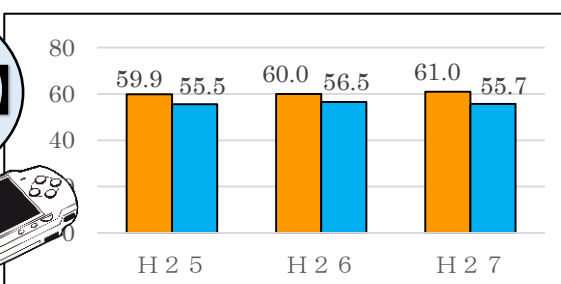


【小学校】

テレビ・DVD等を平日1日当たり2時間以上見る



【中学校】

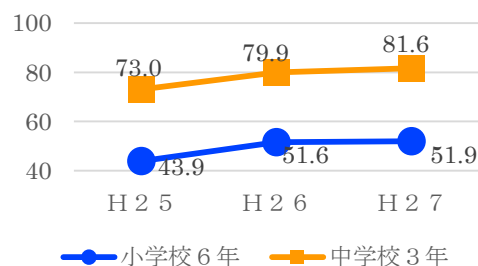


※テレビゲームとは、コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。

右のグラフからは、この3年間で小中ともに携帯電話やスマートフォンの所持率が上昇傾向にあることがわかります。子どもたちには、これまで以上に、情報の受け手、情報の送り手としての正しい判断力を育てていくことが大切になります。また同時に、こうした機器に依存してしまうことのないように、自己管理できる力を育てることも大切です。

近年、携帯電話・スマートフォンの使いすぎやアプリ等をめぐるトラブルが話題になっています。このようなトラブルに子どもたちに巻き込まれないように、学校と家庭が連携を図りながら、子どもたちに働きかけていく必要があります。

携帯電話やスマートフォンの所持率（桑名市）



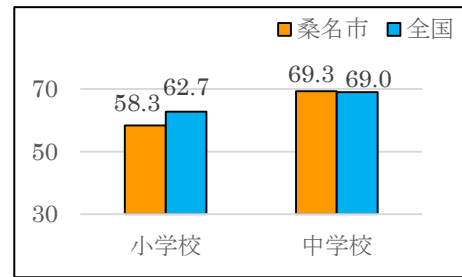
○家庭学習に課題

右のグラフのように平日に1時間以上家庭学習（学習塾等での学習を含む）をしている割合は、中学校において全国並みではあるものの、小学校では全国より4ポイント以上低くなっており課題と言えます。

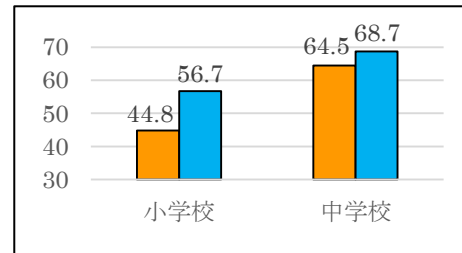
平日の家庭学習に比べ、休日の家庭学習の状況を見ると、小中ともに1時間以上学習する割合が少ないことが分かります。休日こそ、自分のペースで家庭学習を進めるチャンスです。テレビやスマホに家庭学習の時間をとられていないか心配です。学校としても児童生徒が意欲的に取り組める宿題を出したり、自主的な学習の仕方を教えたりしていきたいと考えています。また、家庭でも児童生徒の学習を見守っていただけるよう呼びかけていきます。



平日に1時間以上家庭学習をする



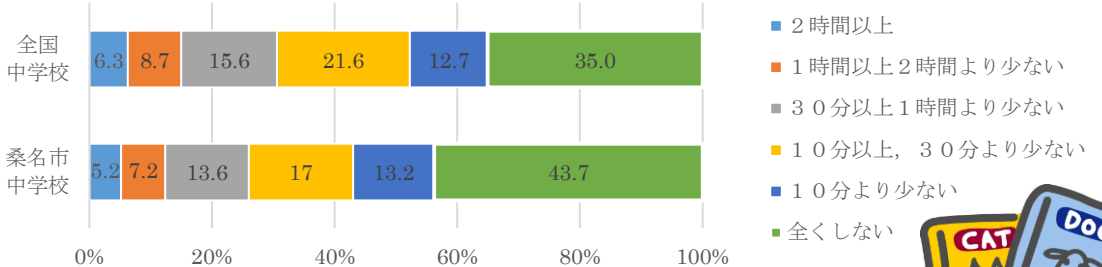
休日に1時間以上家庭学習をする



○読書の時間が少ない

下のグラフのように、「1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）」という質問の回答状況を調べると、全国との比較において、桑名市の読書時間が少ないことが課題としてみえてきました。特に、「全くしない」児童生徒の割合が高くなっていることが気になります。学校や家庭で本に親しむ機会を増やし、読書が与えるいい影響等も発信できるように取り組んでいきます。

「平日、1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか」の回答

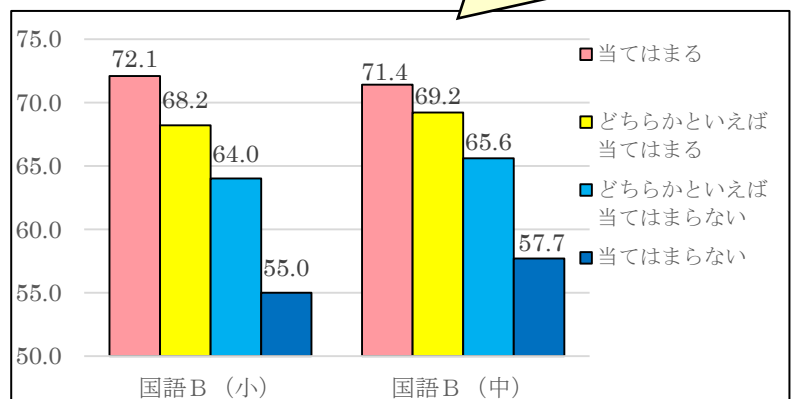


○地域や社会に関心薄い

児童生徒質問紙で「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか」という問いに対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒は、全国と比較して少なく、地域や社会に対して関心が薄いことが分かってきました。また、右のグラフのように、地域や社会で起きている問題や出来事について関心がある児童生徒ほど、平均正答率が高いことも分かっています。

地域や社会に興味・関心を持って、よりよくしようと考える行動できることも大切です。「保護者・地域の皆様へ」でも紹介したように桑名全体で桑名の子どもたちを育て、住んでいる地域に誇りを持つ子どもたちに育てていきたいと考えます。

「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか」の回答と平均正答率の関係（桑名市）

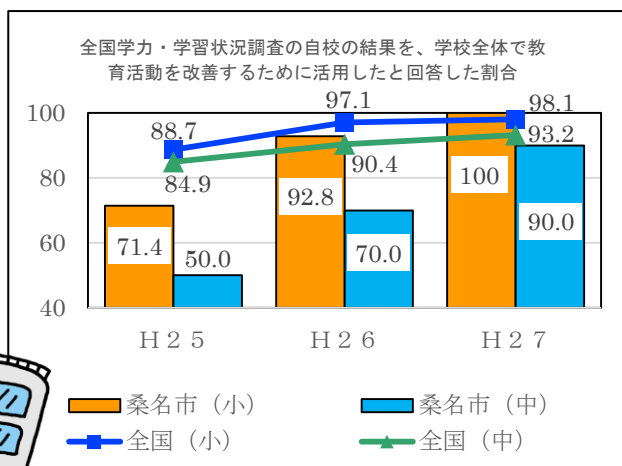
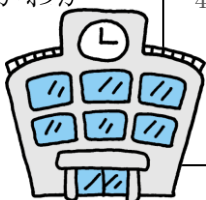


学校質問紙の結果から見た市内小中学校の様子

学校質問紙は、学校に向けて行う質問紙による調査で、各学校の調査責任者によって回答されます。これらの結果を踏まえて、保護者地域の皆様に学校の取り組みや課題について、ご理解いただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○調査結果を活用して、研修等に生かしています。

本調査の結果は、調査学年・教科だけでなく、総合的に全学年の学習や学習状況がどうであったかを捉えることが重要です。各校では、調査結果から見えた強みや弱み（課題）を学校全体で共有し、教育活動を改善するために活用することを進めており、学校質問紙の結果からも市内の学校の意識が高まってきていることがわかります。このような活動を通して、授業改善や、生活指導がさらに充実できるように取り組みます。

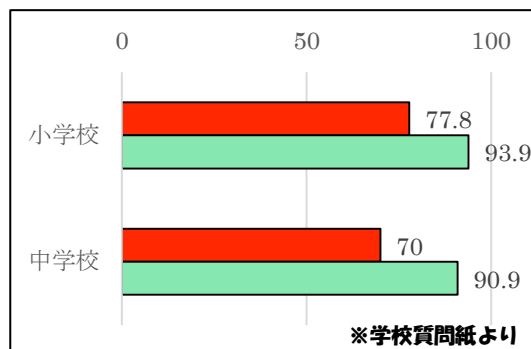
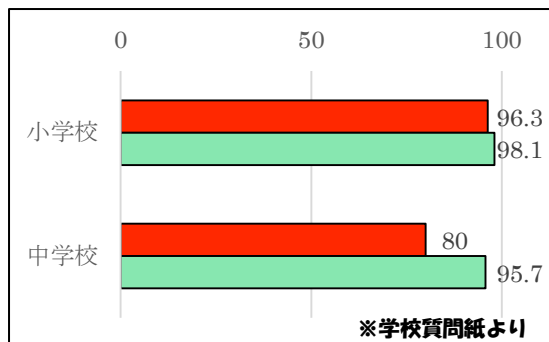


○めあて・振り返りを意識した授業づくりに取り組みます。

授業1時間の中でめあてと振り返りを計画的に取り入れることで、子どもたちは授業の中で何を学習しなければいけないか（何を学習したのか）、どこが分からなかったのか等、短いスパンで確認することができます。また、教師にとっても授業の初めに目標を子どもたちに知らせることで毎時間の授業の達成目標が明確になります。学校質問紙の結果からは、全国においても、桑名市においてもこうした活動を意識した授業づくりを大切にしていることがわかります。今後も、めあてと振り返りを大切にした授業づくりに取り組みます。

○授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を取り入れていたと回答

○授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れていたと回答

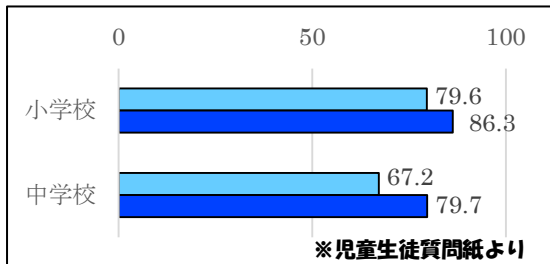


■ 桑名市
■ 全国

一方で…

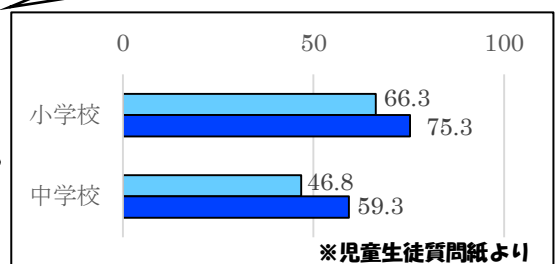
学校が「めあて（振り返り）を意識して授業を行った」と回答していても、子どもたちがその実感が持てていないということも分かりました。このことから、子どもたちが実感の持てるような、めあての提示・振り返りの活動について考えていかなければならないことは今後の課題です。

子どもたちの意識（児童生徒質問紙）より
○授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を取り入れていたと回答



■桑名市
■全国

子どもたちの意識（児童生徒質問紙）より
○授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れていたと回答

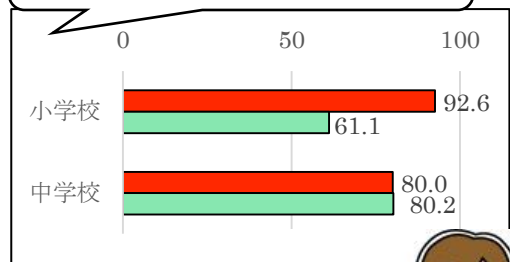


○「読書の時間」などの活動から、進んで読書をする子どもを育てます。

本調査からは、子どもたちの読書時間にばらつきがあり、桑名市でも「全く本を読まない」子どもたちも多くいることが分かっています。右のグラフからは、桑名市内の学校では、一斉読書の時間を設けている学校が多い傾向が読み取れます。また、おすすめの本を紹介し合う、読書週間などを通して読書活動を推進する等、学校独自の取り組みもあります。

今後も、こうした活動を大切に、進んで読書をする子どもを育てていきます。

○「朝の読書」などの一斉読書の時間を週に数回以上行ったと回答



■桑名市
■全国

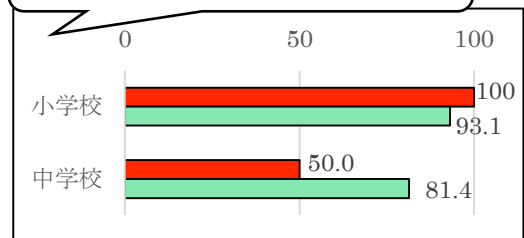


○学校全体が一丸となって子どもたちを見守ります。

学校長が授業を見回り、子どもたちの様子、授業の様子、学校の様子を把握することはとても重要なことです。週に2～3回以上の見回りを実施できたと回答している割合は右のグラフのとおりです。今後の課題と受け止め、発信してまいります。

また、桑名市では、教員の経験年数が少ない教員が全国に比べて多く、今後も教職員の力量アップが課題です。桑名市教育委員会では、教職員に向けて今年度も夏の研修講座を11講座実施し、のべ890人の参加がありました。これらの研修機会も利用しながら、授業力UPにつなげていきます。

○校長は校内の授業を週に2～3回以上見て回っていると回答



○教員の経験年数が5年未満の教員が5人以上いると回答

